

拝啓 今年も早や6月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園では、ねむの木の花が終わり、今はヒメジオンやシロツメ草など雑草がきれいに咲いています。

今回から小西芳之助先生の『コリント人への第一の手紙講解説教』からの引用に入ります。小西先生は、昭和38年と昭和48年の2回、コリント前書を講解されました。『コリント人への第一の手紙講解説教』は、第2回の講解説教テープを元にして編集されています。今回のエンカウンターの7ページ、「コリント前書第13章「愛」、第15章「復活」という項には、次のように書かれています。

「コリント前書の13章は、「愛の章」として有名であります。クリスチャンの多くは、キリスト教は理論ではなく「愛の行い」であると言いますが、そういう「愛」とは違います。この「愛」はパウロの透徹した理性から築かれた「愛」であります。13章で学びますけれども、我々の理性をも本当に動かすものでなければ、永続的な力を持ちません。

また、第15章の「復活論」は、実際問題を説いたこの本の最後として書かれています。これは、誠に注目すべきことであります。もしも、この「復活論」がなかったならば、救いの完成である「復活」の内容が不明となり、キリスト教の喜びと力の源がぼやけてしまいます。キリスト教の頂点はこの「復活」に尽きる。そして、この復活のことについて明快に説明したのは、このコリント前書15章だけです。新約、旧約聖書のどこを探しても、「復活」についてこれほど明快に書かれた箇所はありません。もしも、このコリント前書第15章がなかったならば、キリスト教の教えはあいまいとなり、他の宗教とあまり変わりが無くなってしまいます。極めて重要です。」

特に復活について、聖書の中で最も詳しく説明されているということですから、コリント前書も、大変大切なパウロの手紙ということになります。小西先生が説かれるところと一緒に再度学びましょう。

この一月に読んだ『一日一生』等の本から、感銘を受けた言葉を紹介します。

小西芳之助先生『主の御名を呼ぶ』5月7日

「聖霊

聖霊は、キリスト教を解する鍵である。しからば、誰が聖霊をもてるや。イエスを主と告白する人である。コリント前書12章3節後半に、『聖霊によらなければ、誰も「イエスは主である」と言うことはできない』とあるからである。このペンテコステ（聖霊降臨節）の時に、神よ、聖霊を降し給うて、イエスを「我らの主」と告白せしめたまえ。」

新渡戸稻造先生「一日一言」6月9日

「今日は曇る今日は雨降ると、不平を並べ立てても空は晴れぬ。雨が降るなら、傘一本で我が行動は定まる。ことに当たり、くよくよつぶやきて我が望みのかなうものなら、人生は寝ぼけ奴の現に過ぎぬ。事を決するは断行である。断じて行えば鬼神も避く。」

松下幸之助先生『道を開く』『日々是新』

「昨日は昨日、今日は今日。昨日の苦勞を今日まで持ち越すことはない。「一日の苦勞は一日にて足れり」というように、今日はまた今日の運命が開ける。昨日の分まで背負ってはいられない。毎日が新しく、毎日が門出である。

日々新たなれば、即ち日々是好日。素直で謙虚で、しかも創意に富む人は、毎日が明るく、毎日が元気。さあ、みんな元気で、新しい日々を迎えよう。」

内村鑑三先生「統一日一生」6月16日

「神の恩寵を、この世の幸福又は成功においてみるほど、間違うたる見方はない。そう見るがゆえに、我等はたびたび神を疑い、彼を見失わんとするのである。神が人に給う最大の賜物は、幸福ではなくして聖霊である。聖霊によっておこる善心である。神と人とを愛し得る心である。いかなる境遇にあるも満足する心である。人の全て思うところに勝る平安である。そしてこれらは、神が聖霊をもって直ちに人に給う恩恵の賜物であ〔る。〕

パークレー先生『一日一章』5月25日

「この世の全ての人間に、それぞれあった場所がある。

人生は始めから終わりまで我々を形成しようとしている。

まず両親が我々を形成する。教師が形成する。だが、何よりも人生経験が我々を形成する。人生経験はそのためにあるのである。

「神は万事を益となるようにして下さる」とパウロは言った（ローマ8・28）。災難と思われるようなことですらも、我々のためになるようにできているのである。人が形成されることを拒むのは、人生の悲劇である。」

カウマン先生『山頂を目指して』5月24日

ケンブリッジのカイウス・カレッジには、連続した3つの出入り口がある。最初の出入り口は謙遜、第2の出入口は徳、第3の出入り口（それは上院に向かって開いている）は榮譽と呼ばれている。私たちの先祖がこうした在学生の進歩向上の表象を作ったのは、無駄ではなかったのである。そして、もし青年の一人びとりが、謙遜の門から入り、キリスト者の徳の門を通り、最高の意味における榮譽の門に出て来るならば、それはまことに幸いであると言わなければならない。」

私は、6月22日、第2回目のワクチン注射を終えました。どうぞ皆様も早い機会にワクチン注射を受けられ、コロナを予防されて、お元気にお過ごしください。マスク、手洗い、うがいなどは引き続き励行されまして、お体には十分ご注意下さるよう、お祈り申し上げます。

6月25日

山口周三

エンカウンター読者の皆様